

「域学連携」実践拠点形成モデル実証事業
(平成25年度当初予算)
最終報告会

「長期滞在型農山村インターンシップ
を活用した全村博物館構想の推進」

阿智村「域学連携」地域づくり実行委員会
委員長 吉川智
(名古屋産業大学 教授)

1. 1 取組の概要

○実施の目的・ねらい

- ・長期滞在型農山村インターンシップを活用し、若い人材が地域の担い手活動を行うことにより、地域資源の見直し・発見・活用がなされ、「全村博物館構想※」に沿った地域および地域産業の活性化につなげる。

※史跡や景観などの地域固有の資源を保存・継承する運動。

「全村博物館協会」が推進。



長野県下伊那郡阿智村 H22人口7,036人、財政力指数0.22

1. 2 取組の概要

○事業内容と達成目標

(1)「尾張あさひ苑」等での旅館業の就業体験を実施

目標:学生活動量30人日

(2)「地域おこし協力隊」と連携し、体験型・実践型の共同活動を行い、地域の問題点を共有

目標:学生活動量30人日

(3)さまざまな地域の観光資源を調査・見学し、学生視点での地域観光資源の開拓、及びそれらについてインターネット等を活用し、地域情報を発信

目標:地域資源ホームページ作成、パンフレット作成

(4)現地での発表会(報告会)を実施

(5)地域と大学との密接な連携を行い、知の蓄積・連携を通じた自立的な地域づくり等を推進

1. 3 取組の概要

○連携大学

- ・名古屋産業大学 環境情報ビジネス学部(全教職員(教員29人))

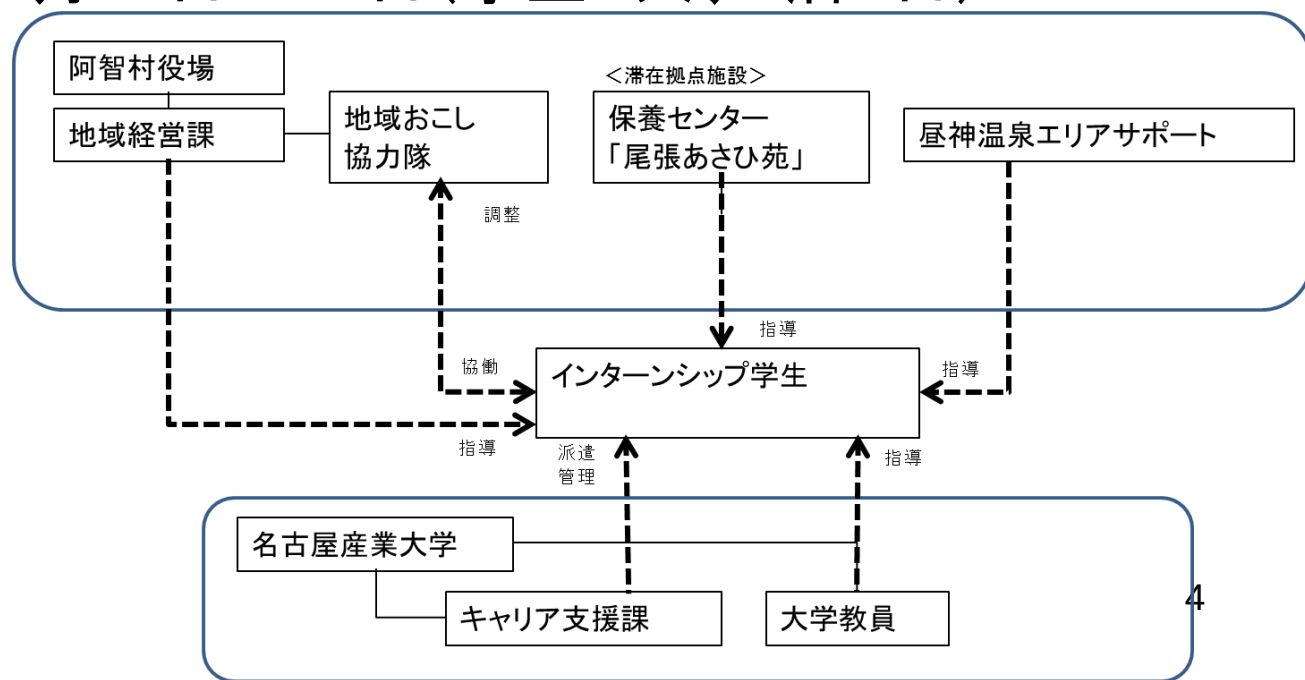
所在地:愛知県尾張旭市

※尾張旭市の保養センター「尾張あさひ苑」が阿智村にあり、平成21年に大学と地域の連携協定締結

第1期 平成25年12月21日～27日(学生4人、6泊7日)

第2期 平成26年2月17日～25日(学生5人、8泊9日)

○実施体制図



2. 今年度の事業内容

○年間行程

- ・10月 詳細な実施計画の立案
- ・11月 実行委員会の立ち上げ、阿智村と大学との体制作り
- ・12月 第一次インターンシップ実施
- ・1月 現地報告会の開催
- ・2月 第二次インターンシップ実施

○受入の特長

- ・使われていない従業員宿舎を有効活用
- ・就業体験を通して、地域から必要とされる活動を実施
- ・地域の様々な主体と連携関係を構築

3. 活動内容(1)

(1)旅館業の就業体験



厨房での皿洗い(毎日)



雪かき作業



LED電球へ交換(25部屋)



大浴場清掃作業



パンフ用写真撮影



地域イベント運営補助

3. 活動内容(2)

(2)「地域おこし協力隊」と連携活動



囲炉裏の火起こし



古代米の脱穀(20kg)



まき割り



炭焼き(20㍑)



大豆殻取り(30kg)



木材運び(50kg)

3. 活動内容(3)

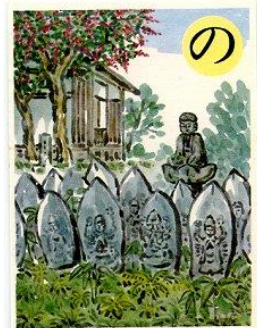
(3)『阿智村かるた※』を素材とした地域資源の調査

※昭和49年(1974)、村民有志が小学生・園児へのクリスマスプレゼントとして作成し全戸に配布。

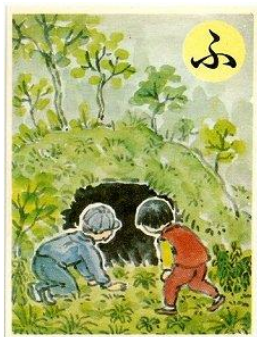
合計37箇所 of 現地調査、約1500枚の写真撮影(下記は一例)



格子戸の並ぶ
こまんば 宿場町



野仏に 赤い花散る
の 普門院



ふるき謎
秘めた古墳の狐塚



はろき木館館長
ヒアリング調査

な

浪合の中馬街道
おもかげ残す
【試作】



し

シユタイナー教育が
いまも生きづく
浪合学校
【試作】



3. 活動内容(4)

(4) 現地での報告会と交流



現地報告会(参加約30人)



6:00～の朝市に訪れる観光客



阿智高校地域政策コースとの連携



特産の干し柿(熊谷常和さん)



浪合地区 山口氏



満蒙開拓平和記念館

3. 活動内容(5)

(5) 地域と大学との密接な連携(さまざまな活動)



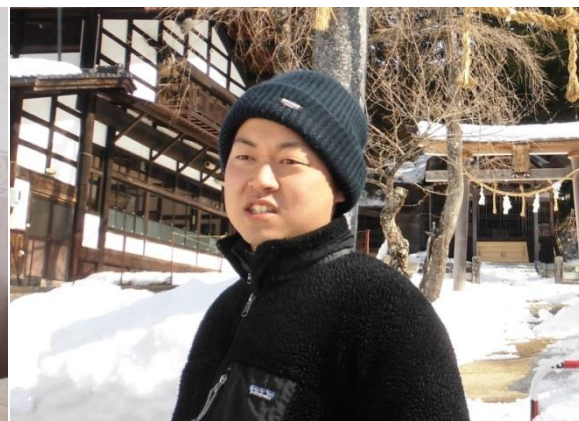
なみあい育遊会と共同生活



大旅館での就業体験



温泉地散策路の雪かき



地域おこし協力隊とのインタビュー
(大藪政隆さん、木下善雄さん、本柳寛人さん)

4. 成果と実績(1)



○実践拠点形成における成果・実績

- ・尾張あさひ苑従業員宿舎に、学生が自立的に現地活動を行うための拠点を整備した。(カメラ、プリンタ、自転車、ホームページ等)
- ・平成26年度以降の大学の正課教育としての長期滞在型農山村インターンシップ活動における地域ニーズに沿った学習目標を明確にした。

○地域の成果・実績

- ・大学生が、地域おこし協力隊と連携して地域の担い手活動を行い地域振興が図られ、また、地域観光資源の見直し・発見・活用により観光振興も図られた。

○大学の成果・実績

- ・学生は、中山間地域での就業体験や生活体験を通じて、働くことや生きることの意味を考える機会が得られ、就業に対する価値観が変化し、地域で活躍できる人材としてのスキルを向上させた。
- ・大学は、地域ニーズに合った研究・教育・社会貢献が推進し、特に授業の質の改革が促進された。

4. 成果と実績(2)

○滞在日数に対する評価・考察

- ・厳寒期でもあり、滞在日数は短かったが、多彩な活動をするには十分な滞在であり、二期に分けたことで、中だるみすることなく中身の濃いインターンシップを実施することができた。

○反省・課題

- ・一般の村民との連携活動については、準備期間が短く、厳寒期でもあったことから、十分に実施できなかった。春から夏にかけて大学3年生対象の3ヶ月インターンシップ、大学2年生対象の2週間インターンシップを活用し、腰を据えて継続的に取り組んでいきたい。

域学連携事業(H25)

短期(2週間)インターンシップ(2単位)(H24～)

長期(3か月)インターンシップ(18単位)(H26～)

5. 今後の展開について

○今後のポイントとなる取り組み、仕掛け

- ・地域のニーズに合った活動の継続・推進
(平成版阿智村かるた製作:長野県の支援金の獲得)
- ・阿智高校との高大連携や、地域おこし協力隊との連携活動
による地域人材の育成

○次年度以降の実施方針

- ・春から夏にかけて大学3年生対象の3ヶ月インターンシップ
(計18単位)、大学2年生対象の2週間インターンシップ(2
単位)を実施する。
- ・学生が現地で活動するための拠点とする設備整備、さまざま
な地域でのキーパーソンとの人的ネットワーク整備により、
学生が主体的に地域活動を実施する。